

① 令和7年度マナビトゼミ 立教大学 郭ゼミ

「日本と世界の今を読み解く—個人研究に挑戦してみよう—」

授業の目的

今年1月にトランプ政権が誕生しました。その後、あらゆる国に相互関税をかけるなど第1次トランプ政権以上に「アメリカファースト」が顕著になってきました。それにより世界には不安と懸念が渦巻いています。それに輪をかけるように、資源価格の高騰・人手不足・年金問題などにより社会は先行きが不透明になってきています。本ゼミでは、こうした日本と世界を取り巻く問題について分かりやすく解説します。様々な社会の問題が分かれば氾濫した情報を正しく理解し自らが判断することで納得した生活を歩むことができるようになります。そのためには講義を聴くだけではなく、受講生の皆さん自身にも考え、調べ、まとめる力を養ってもらいたいと思います。昨年度は共同作業によって「区民が考える豊島区産業振興指針」を作成しましたが、今年度は個人作業によって「論文」を作り、それらをすべてまとめて、1つの冊子にします。完成した論文集は皆さんの成長を証である（ポートフォリオ）とともに、財産として残るでしょう。

ゼミの進め方は、ゼミの奇数回で講義とそれに基づくグループディスカッション、偶数回は前回のゼミで皆さんが関心を持ったテーマを基にそれぞれレポートを作成し発表します。それを3回繰り返した後、最終的にはまとめた3つのテーマの中から1つ選び、論文としてまとめてもらいます。

＜このゼミで身につく力＞

- ①探究力、②洞察力、③論文を書く力、④ディスカッション能力、⑤プレゼンテーション能力、⑥コミュニケーション力 等

期間 9月～令和8年3月 木曜日 19時～20時30分 全7回

会場 立教大学キャンパス内教室

受講の方式 対面

講座の形式 講義／グループワーク／フィードバック

定員 30名程度

※状況により、会場、開催方法、日程、内容が変更になる場合があります。

回数	ゼミ授業	ゼミ後の個人作業
第1回	講義①＋グループディスカッション（以下GD）	レポート①作成
第2回	レポート①発表＋フィードバック（以下FB）	レポート①のブラッシュアップ
第3回	講義②＋GD	レポート②作成
第4回	レポート②発表＋FB	レポート②のブラッシュアップ
第5回	講義③＋GD	レポート③作成
第6回	レポート③発表＋FB	レポート③のブラッシュアップ／ 論文作成
第7回	論文発表会	論文集作成

授業の内容と日程

① 9月4日(木) 19時～20時30分 会場：立教大学キャンパス内教室

「トランプ政権をどう見るか」

2025年1月に発足したトランプ政権が発表した相互関税を発した理由は何か、他国、特に日本の経済社会に与える影響は何かを解説します。また、日本はどのような対応を取ろうとしているのかも講義します。その後、グループ分かれて講義内容を基にディスカッションをしてもらいます。そして、次回までに皆さんが関心を持った内容からテーマを見つけレポート①を作成します。

② 10月2日(木) 19時～20時30分 会場：立教大学キャンパス内教室

「レポート発表①」

グループ(1グループ4～5人)に分かれ、前回の講義・GDで興味を持った内容のレポートを発表・FBします。授業終了後に、FBしてもらった内容を基にレポートのブラッシュアップをします(個人作業)。

③ 11月6日(木) 19時～20時30分 会場：立教大学キャンパス内教室

「日本の経済社会の抱える問題を考える」

コロナ後に大きな社会問題となった人手不足、少子高齢化問題、農業・中小企業の後継者問題、地域間格差、財政破綻などについて解説します。その後、グループ分かれて講義内容を基にディスカッションをします。次回(第4回)までに皆さんが関心を持った内容からテーマを見つけレポート②を作成します。

④ 12月4日(木) 19時～20時30分 会場：立教大学キャンパス内教室

「レポート発表②」

グループ(1グループ4～5人)に分かれ、前回の講義・GDで興味を持った内容のレポートを発表・FBします。授業終了後に、FBしてもらった内容を基にレポートのブラッシュアップをします(個人作業)。

⑤ 令和8年1月15日(木) 19時～20時30分 会場：立教大学キャンパス内教室

「日本の将来を考える」

様々な問題を抱える日本と世界の将来について考察します。その後、グループ分かれて講義内容を基にディスカッションをします。次回(第6回)までに皆さんが関心を持った内容からテーマを見つけレポート③を作成します。

⑥ 令和8年2月5日(木) 19時～20時30分 会場：立教大学キャンパス内教室

「レポート発表③」

グループ(1グループ4～5人)に分かれ、前回の講義・GDで興味を持った内容のレポートを発表・FBします。授業終了後に、FBしてもらった内容を基にレポートのブラッシュアップをします(個人作業)。

⑦ 令和8年3月5日（木）19時～20時30分 会場：立教大学キャンパス内教室

「論文発表会」

過去3つのテーマの中から1つを取り上げ、さらに掘り下げたものを完成論文として作成し、発表します。発表はグループごとに行います。提出された論文は1つにまとめ論文集として受講生の皆さんに配布します。

講師 郭洋春氏

立教大学経済学部特別専任教授。専門は開発経済学、アジア経済論。現在は人と人、人と自然、人と社会との関係性を見直す平和経済学を研究中。
豊島区商工政策審議会委員長。



【必読】参考文献・テキスト

『100 均資本主義～脱成長社会「幸せな暮らし」のつかみ方』

（プレジデント社、2022年12月、国際アジア共同体学会岡倉天心記念賞授与（2024年3月））

著書

『経済開発の過去・現在・未来 開発経済学の果たした役割』（文真堂、2023年5月）

『国家戦略特区の正体 外資に売られる日本』（集英社新書、2016年2月）

『TPP すぐそこに迫る亡国の罠』（三交社、2013年6月）

『現代アジア経済論』（法律文化社、2011年11月）

『開発経済学』（法律文化社、2010年2月）その他多数

シラバス

②令和7年度マナビトゼミ 大正大学 歴史講座

「歴史を見る目—イメージと実像—」

授業の目的

歴史上の人物や事件・出来事について、多くの人々は教科書や書籍、テレビ・ドラマなどの様々なメディアによるイメージを持っているのではないのでしょうか。しかし、一般的に認知、イメージされることと、近年の研究進展により明らかにされてきた「史実」と、ギャップが広がっているものも少なくありません。そこでこの講座では、“歴史を見る目”というテーマで、歴史上の人物や事件・出来事などに関わる一般的なイメージと実像との相違点に注目して、歴史を改めて見直していきたいと思います。

期間	10月～令和8年2月 土曜日 10時30分～正午 全5回
会場	大正大学キャンパス内教室
受講の方式	対面
講座の形式	講義
定員	50人程度（マナビト2年生、マナビト研究生）

※希望者多数の場合は2年生を優先とし、研究生は抽選となります。

※状況により、会場、開催方法、日程、内容が変更になる場合があります。

授業の内容と日程

① 10月4日（土）10時30分～正午 会場：大正大学キャンパス内教室

『織田信長と室町幕府・足利将軍—「天下」をめぐる—』

講師：木下 昌規 氏（大正大学文学部歴史学科 准教授）

織田信長といえば、旧体制を破壊する革新的な人物とのイメージが強くあります。そこで、旧体制の象徴ともいうべき室町幕府・足利将軍との関係から、実像をみていきます。

② 11月1日（土）10時30分～正午 会場：大正大学キャンパス内教室

『江戸繁栄の立役者—天海のイメージと実像—』

講師：中川 仁喜 氏（大正大学文学部歴史学科 教授）

徳川家康・秀忠・家光の将軍三代にわたって帰依を受けた天海大僧正の足跡を、史料に基づいた実像を紹介します。

③ 12月20日(土) 10時30分～正午 会場：大正大学キャンパス内教室

『縄文土器の精粗・新旧・西東』

講師：富井 眞 氏（大正大学文学部歴史学科 教授）

教科書に載る縄文は“特徴的”なもの。地元の博物館で見る縄文土器は、その地に特有のもの。しかし、それらは実はいずれも少数派です。縄文土器の実態について学びましょう。

④ 令和8年1月31日(土) 10時30分～正午 会場：大正大学キャンパス内教室

『文化財からみる浅草寺の歴史』

講師：伊藤 宏之 氏（大正大学文学部歴史学科 准教授）

浅草寺は東京都内屈指の古刹ですが、その歴史はあまり知られていないのではないのでしょうか。さまざまな歴史資料・文化財を手掛かりにひも解きます。

⑤ 令和8年2月21日(土) 10時30分～正午 会場：大正大学キャンパス内教室

『「尼將軍」北条政子－史料から読み解くその実像－』

講師：三浦 龍昭 氏（大正大学文学部歴史学科 教授）

源頼朝の妻で「尼將軍」として知られる北条政子。時代とともに多様なイメージで語られてきましたが、同時代の史料からその実像に迫ってみたいと思います。

③令和7年度マナビトゼミ 帝京平成大学 心理学ゼミ

「心理学の専門家から学ぶ-自己を知りハッピーに生きる知識と技術」

授業の目的

日々の生活や仕事の中で、人間関係をもっと良くしたい、充実した時間を過ごしたいと思っている方のためのゼミです。座学と誰でも出来る簡単な実技練習（ロールプレイなど）を通して、日常生活で役立つ「自己を知りハッピーに生きる知識と技術」を学びます。自分を知り、他人との関わり方を学ぶことで、誰もが住みやすい地域づくりとは何かも考えていきます。

期間	9月～12月 金曜日 18時30分～20時 全4回
会場	帝京平成大学 池袋キャンパス MiNoRi ラボ 3階 304／305教室
受講の方式	対面
講座の形式	グループ討論
定員	30人（マナビト2年生、マナビト研究生）

※希望者多数の場合は2年生を優先とし、研究生は抽選となります。

※状況により会場、開催方法、日程、内容が変更になる場合があります。

授業の内容と日程

① 9月12日（金）18時30分～20時

「オリエンテーション（ゼミの計画とコミュニケーションの基本を解説します）」

講師：安西 信雄 氏（帝京平成大学大学院 臨床心理学研究科 教授）

自己紹介でお互いを知り合いましょう（だれでも出来る超簡単な自己紹介のしかた）。

コミュニケーションの基本的スキル（軽い世間話、傾聴する、褒める、人の話を否定しないで聞く、頼み事をするなど）についても練習しましょう。

② 10月10日（金）18時30分～20時

「ともに決める：共同意思決定の基本と実践」

講師：管 心 氏（帝京平成大学大学院 臨床心理学研究科 教授）

日常的一幕から大事な場面まで、皆さんはどのように考えて意思決定を行っていますか。皆が意見を出し、皆が納得する結論が得られるように話し合うプロセスを共同意思決定と呼びます。実践を通じてその効果を実感してみましょう。

③ 11月14日(金) 18時30分～20時

「自己をあたたく受け入れるために：ロールレタリングの活用」

講師：大久保 智紗 氏（帝京平成大学大学院 臨床心理学研究科 講師）

日々、つらいことや苦しいことがあったとき、自分をどのように扱っているでしょうか。自分をケアするときもあれば、自分に厳しく、責めることもあるでしょう。ロールレタリングを使って、自分を支えてくれる他者や自己の一面に気づいてみましょう。

④ 12月19日(金) 18時30分～20時

「happy な関係を作るコミュニケーション」(ふりかえりとまとめ)

講師：岩藤 裕美 氏（帝京平成大学大学院 臨床心理学研究科 准教授）

第1回から第3回のゼミで学んで、変わったこと、変わることができなかったこと、やってみたこと、やってみたいことなどを共有し、ふりかえります。最後にまとめとして、お互いに認め合い happy な関係を作るコミュニケーションを、グループワークを通して一緒に体験してみましょう！

会場

帝京平成大学 池袋キャンパス MiNoRi ラボ（豊島区東池袋 4-26-10）

3階 304/305 教室

- ・池袋駅東口から徒歩10分
- ・東京メトロ有楽町線 東池袋駅2番出口から徒歩5分
- ・都電荒川線 東池袋四丁目から徒歩8分

※建物の名称が今年度より変更となっております。



④令和7年度マナビトゼミ 佐藤ゼミ

「童話・絵本に学ぶ共生の知恵～ひと、生き物、自然のつながり」

授業の目標

世界各地には人間と自然との関わりを表現した童話や絵本があります。それらの中には、人間と他の動物との関わりを描いたもの、動物をキャラクターにしたストーリーをとおして人間社会について批評的に語ったものなど、やさしい読み物でありながら、人間を深く理解する作品もたくさんあります。これまで文芸や評論などを中心に“読み”を深めてきた佐藤ゼミは、2025 年度には童話・絵本を題材として、多様な“読み”の場をつくっていきます。多文化共生時代には、動物や自然を含めた共生の知恵が求められます。そのヒントを、童話・絵本に探ることが本講座のゴールです。

授業の内容と日程

授業では二つのことを目指します。一つは、受講生の皆さんに、豊島区立中央図書館の「図書館通信」(Web 上で公開予定)にある書籍紹介欄「この本カフェ」への寄稿をチャレンジしてもらうことです。初回授業では「この本カフェ」のバックナンバーを参照しつつ、ゼミの学びの成果を共有します。もう一つは、各回の題材について読み、話し、考えたことをまとめ、日常の行動に活かすヒントを探ります。

ゼミで扱う絵本・童話は、受講生の皆さんと相談の上で選び、グループワークをまじえつつ読んでいきます。ゼミの成果報告会として、「絵本カフェ～絵を読む・言葉を描く」という企画も実施する予定です。また、コミュニティ大学のほかのクラスとの交流・対話も行う予定です。どうぞお楽しみに。

期間	7月～令和8年1月 火曜日 19時～20時30分 全6回
会場	としま区民センター他
受講の方式	対面／オンライン
講座の形式	講義、グループワーク
定員	20人（マナビト2年生、マナビト研究生）

① 7月8日（火） 19時～20時30分 会場：としま区民センター503 会議室

(1) この本カフェへの招待 - 図書館通信「この本カフェ」を読む

(2) 童話・絵本を読むこと - 世界を描写し、物語る童話の深み

*一緒に読みたい作品を持参できる方は、初回に持参または紹介ください。

【宿題】童話・絵本にふれてあらためて見えてくることを 600 字程度でまとめる。

- ② 9月2日(火) 19時～20時30分 会場：未定
(予定) イソップ童話を読む：イソップ物語から1、2点選び、それぞれの解釈を共有する。
【宿題】グループワークで議論したことを含めて、学んだことを600字程度でまとめる。
- ③ 10月7日(火) 19時～20時30分 会場：未定
(予定) グリム童話(寓話)を読む：グリムの物語から1、2点選び、それぞれの解釈を共有する。
【宿題】グループワークで議論したことを含めて、学んだことを600字程度でまとめる。
- ④ 11月4日(火) 19時～20時30分 会場：未定
(予定) アジア、インド、中東地域の童話を1、2点選び、それぞれの解釈を共有する。
【宿題】グループワークで議論したことを含めて、学んだことを600字程度でまとめる。
- ⑤ 12月9日(火) 19時～20時30分 会場：未定
(予定) 日本の童話を読む：日本の童話から1、2点選び、それぞれの解釈を共有する。
【宿題】グループワークで議論したことを含めて、学んだことを600字程度でまとめる。
- ⑥ 令和8年1月13日(火) 19時～20時30分 会場：未定
総括：1-5回で読んだ作品の中から一つ選び、グループで朗読し相互講評。
また、ゼミのまとめをおこなう。＊「ゼミ成果報告会」の開催も予定。

講師 佐藤 壮広氏(さとう たけひろ)氏

山梨学院大学共通教育センター特任准教授。立教大学文学部兼任講師。

人類学者。表現文化の実践および沖縄文化研究。

豊島区立中央図書館「図書館通信」の「この本カフェ」を監修。豊島区在住。



使用予定テキスト

とりあげる作品リストや購読資料は、随時、紹介・配布し、受講生と相談の上で選書も行う。

⑤令和7年度マナビトゼミ 多文化共生ゼミ

「多文化共生について学ぶ —外国籍住民と対話を通して、仲介能力を身に着けよう—」

授業の目標

日本社会に様々な外国人が暮らしています。豊島区は外国人の比率が特に高い地区です。しかし、生活の中で外国籍住民と会話を交わしたり、日本でどのような生活をしているかについてお互いの理解を深めたりする機会が非常に限られていますし、外国籍住民とどのように対話したらよいのか不安を感じる人も多いと思います。

この講座では、次の2つのことを目標とします。1つ目の目標は、様々な国籍や背景を持つ受講生が日常生活や日本社会に対する気持ちや思いを伝え、お互いの価値観を認め合うことで、相互理解を深める方法や経験を身につけることです。2つ目の目標は、外国籍住民との会話に不安を感じる参加者をサポートしたり、言葉の壁を感じる外国籍住民を日本社会につなぐ橋渡しの役割を果たしたりするなど、外国籍住民との共生社会を実現するための「仲介能力」を獲得することです。

期間	8月～令和8年2月 土曜日 10時15分～11時45分 全7回
会場	区施設
受講の方式	対面
講座の形式	グループでの話し合い&話し合いのふりかえり
定員	15人程度

※希望者多数の場合は2年生を優先とし、研究生は抽選となります。

※状況により、会場、開催方法、日程、内容が変更になる場合があります。

授業の内容と日程

1つ目の目標の「相互理解」を深めるためには、外国籍住民1人1人の日本語能力に合わせて、日本語を簡単な言い方に置き換えたり、ジェスチャーを交えながらゆっくり話したりする工夫が必要です。本講座では、相手の話を引き出すとともに、自分の考えや意見をわかりやすく伝える活動を通して、多文化共生社会の実現に必要なコミュニケーション能力の向上を目指します。

2つ目の目標「仲介能力」を身につけるためには、外国籍住民との話し合いの中で、思う通りにうまく行かない部分について理由を考えたり、話し合いの中でうまく参加できない人・うまく参加できる人の行動を観察したりする形で、会話実践を振り返ります。また、本講座で築く外国籍住民との関係性を生かし、生活の中で彼らを日本社会につなぐためにはどんなことができるか模索します。

① 8月30日(土) 10時15分～11時45分 会場：未定

テーマ：講座の説明(プレゼミ)

- (1) やさしい日本語を使って話す
- (2) 外国籍住民との話し合いでどんなことをつければよいかについて考える

② 9月6日(土) 10時15分～11時45分 会場：未定

テーマ：私の一日

- (1) 受講生による話題提供
- (2) 生活のルーティンについて話す

③ 10月11日(土) 10時15分～11時45分 会場：未定

テーマ：私の故郷

- (1) 受講生による話題提供
- (2) 故郷について話す

④ 11月8日(土) 10時15分～11時45分 会場：未定

テーマ：私たちの気持ち

- (1) 受講生による話題提供
- (2) 生活の中の「うれしいこと」「大変なこと」「心配なこと」について話す

⑤ 12月6日(土) 10時15分～11時45分 会場：未定

テーマ：好きな本

- (1) 受講生による話題提供
- (2) 好きな本（絵本、漫画、小説、写真集、料理レシピなど…）を紹介する

⑥ 令和8年1月10日(土) 10時15分～11時45分 会場：未定

テーマ：外国人のライフストーリー

- (1) 受講生による話題提供
- (2) 外国人のライフストーリーを聞く

⑦ 令和8年2月7日(土) 10時15分～11時45分 会場：未定

テーマ：日本のいいところ、よくないところ

- (1) 受講生による話題提供
- (2) 日本のいいところ、よくないところについて話す

講師 杜 長俊（と ちょうしゅん）氏

北海道大学 高等教育推進機構 准教授。

留学生の日本語教育、地域の生活者のための日本語教育、日本人学生と留学生が共に学ぶ多文化共修科目、多文化共生社会に携わる人材の育成に取り組んでいます。

地域日本語教育スタートアッププログラム地域日本語教育アドバイザー（2025 年から）。

台湾出身。日本居住歴17年。

対象

- ① 外国籍住民と交流したい方
- ② 外国籍住民の事情や生活を知りたい方
- ③ 多文化共生社会のために何かをしたい方

使用予定テキスト

関連資料や活動のタスクシートを、講座で随時、配布する予定。

その他

マナビト研究生と中国出身の外国人の方が、講座の話し合いの補助や外国籍住民との連絡など、本講座の補佐をします。

⑥ 令和7年度研究生対象マナビトゼミ 哲学カフェ

「哲学カフェ～理論と実践で対話を学ぶ～」

授業の目的

現代社会では、集団でものごとを進めるためには、十分な相互理解の上で、価値のすり合わせを行い、合意を作り上げていくことが大切です。深い相互理解と基本的な価値の共有がなければ、企業活動も、地域活性化も、コミュニティづくりも、教育活動も、うまくいくことはありません。

そのために、本授業では、哲学カフェの実施の仕方、哲学対話の行い方を学んでいただきます。哲学カフェとは、哲学的なテーマについて、唯一の正解のない問いについて参加者がフラットに話し合う活動です。近年、地域創生の現場や、被災地での話し合い、学校教育などに盛んに導入されています。本講座では、環境、教育、職場、家庭をテーマとし、問いを立てて話し合いを行います。

哲学カフェで行われる哲学対話は、先哲に関する難しい知識を披露する場所ではありません。ここでの「哲学」とは、「自分の常識を疑う」という意味です。哲学対話は、対話を通して、自分が知らない間に身につけてしまっている常識や、こり固まった発想を参加者同士で互いに解きほぐし、それぞれがより自由に考えられるようになることを目指します。哲学対話の方法を学び、誰とでも互いに学び合いながら、自由に話し合い、より豊かな発想を得られるようになることが本授業の目的です。哲学対話を社会の中で実践することができれば、安心して自分の意見を言い合える関係性を築くことができ、建設的な対話を通して、参加者が協力して主体的によりよい地域社会をつくっていくことができるでしょう。

授業の進め方は、以下のように、理論パートでは、哲学対話の方法や哲学カフェの実施の仕方、ファシリテーションのやり方などを解説したあとに、実践パートでは、実際に参加者同士で、さまざまなテーマと方法で、哲学対話を体験します。最終的には、人の話を引き出し、参加者が互いに学べるようなファシリテーションの仕方を身につけていただくことが目的になります。この講座を通して、最終的に、次のことを学んでいただきたいと思います。

- ・自分の「当たり前」が他人にとっての「当たり前」でないことに気づき、価値観の異なる人と対話ができるようになる。
- ・相互に人の意見を引き出し、創造的な発想をグループで作ることができる。
- ・コミュニティ形成、住民自治の担い手（主体）であるという自覚が持てるようになる。
- ・としまコミュニティ大学で学ぶ意義を認識する。

期間	7月～11月 土曜日 午後 全6回
会場	立教大学キャンパス内教室
受講の方式	対面
講座の形式	講義とグループ討論
定員	30名程度

※状況により、会場、開催方法、日程、内容が変更になる場合があります。

授業の内容と日程

① 7月12日(土) 17時～18時30分 会場：立教大学キャンパス内教室

「哲学対話の方法と哲学カフェの意義」

理論パートでは、哲学対話とはどのような活動か、またそれを実施する「哲学カフェ」がどのような意義、とりわけ地域創生やコミュニティづくりにとっての意義について解説します。実践パートでは、以下の対話の最初の場づくりについて学びます。①アイスブレイキングの方法：場を温め、話しやすくする方法。特に複数の自己紹介の仕方について学びます。②相互質問法：対話において最も重要なのは、相互に質問をすることです。相互質問法という問いかけの仕方がうまくなる方法を学びます。各回で最後に振り返りと質問時間を設けます。

② 7月19日(土) 17時～18時30分 会場：立教大学キャンパス内教室

「哲学カフェの開催の仕方」

理論パートでは、哲学カフェを実施する具体的な方法や、注意点、対話の進め方について解説します。実践パートでは、①相互質問法をもう一度行い、②問いの立て方を学んでもらいます。哲学対話で最も重要なのは、どのような問いを立てるかです。これについて、グループの中で問いを立てていく方法を学びます。

③ 10月11日(土) 17時～18時30分 会場：立教大学キャンパス内教室

「ファシリテーションの方法」

理論パートでは、ファシリテータとなって対話を進行させるのに、必要な心構え、方法、スキル、記録(板書)の仕方、禁止事項などについて解説していきます。対話がなかなかうまく進行しない時や内容が深まらないときにどうすればいいかについても解説します。実践パートでは、アイスブレイキングから問いの立て方、対話の進行を一連の流れとして経験します。

④ 10月18日(土) 17時～18時30分 会場：立教大学キャンパス内教室

「さまざまな方法とファシリテーションの実践」

理論パートでは、さまざまなタイプの対話の場の作り方(サイエンスカフェ、美術館賞カフェ、哲学ウォーク、町再発見カフェなど)について紹介し、特に人数が多い時の哲学対話の方法、「金魚鉢型」と「シンポジウム型」のやり方を学びます。実践パートでは、5～6名のグループに分かれて、参加者にファシリテータを担当してもらい、少人数での哲学対話を実施します。

⑤ 10月25日(土) 14時～15時30分 会場：立教大学キャンパス内教室

「哲学対話の実践①」

第5回と第6回では、実践パートを中心にして、振り返りの時間を十分に持ちます。10～15名ほどの人数でのグループを作り、金魚鉢型の実践をします。

⑥ 11月1日(土) 14時～15時30分 会場：立教大学キャンパス内教室

「哲学対話の実践②」

実践パートでは、10～15名ほどの人数でのグループを作り、時間を二つに分けて、哲学対話を通して実施します。できるだけ、多様な方にファシリテータになっていただきます。

講師 河野 哲也氏

立教大学文学部教授。日本学術会議第26～27期委員、哲学委員会委員長。日本哲学会理事。専門は哲学・倫理学、教育哲学、哲学プラクティス。現代哲学を専門としながら、哲学対話を学校、地域、美術館、公民館などで実践し、普及活動を行っている。

参考文献・テキスト

河野哲也編 『ゼロからはじめる哲学対話（哲学プラクティス・ハンドブック）』

（ひつじ書房、2020年）

著書

河野哲也『じぶんで考えじぶんで話せるこどもを育てる哲学レッスン 増補版』

（河出書房新社、2021年）

河野哲也監修、菅原嘉子著 『まんがで哲学 哲学のメガネで世界を見ると』（ポプラ社、2023年）

河野哲也監修『こどもたちが考え、話し合うための絵本ガイドブック』（アルパカ、2023年）

アーダコーダ編著『こども哲学ハンドブック 自由に考え、自由に話す場の作り方』

（アルパカ、2019年）

その他多数